National Teachers Union of Private Universities and Colleges

で放大ユコオソ・ニュース

第 101 号 2024/03/15 全国私立大学教職員組合(私大ユニオン) 〒101-0003東京都千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館6階 電話03-3262-2151 FAX03-3262-2152 郵便振替00190-3-28088 http://upuc.org/

郵便振替00190-3-28088 http://upuc.org/

ゆたかな学びで創造する「ものづくり」 第6回ものづくり教育シンポを開催

2月18日(日)、第6回ものづくり教育シンポジウムが、埼玉県行田市のものつくり大学で開催された。JAM(ものづくり産業労組)と日教組の主催で、新型コロナの流行以前は2-3年毎に大阪府・新潟県など全国各地で開催されてきた。今回は3年前に結成されたものつくり大学教職組をベースとして、共催の学校法人ものつくり大学の全面的協力のもと、連合埼玉、埼玉県、行田市等の後援を得ている。

【産学官労連携で実学重視のものつくり大学】

2001年度に開設されたものつくり大学は、「技能の分かる技術者(テクノロジスト)」の育成をめざして、実学を重視している。現在、技能工芸学部に情報メカトロニクス学科と建築学科の2学科の他、大学院ものつくり学研究科がある。

建学の理念および成立の経緯上、産業界とのつながりが強く、学校法人の初代会長には豊田章一郎さん(元トヨタ自動車社長)が就任し、初代総長には哲学者の梅原猛さんを招聘した。清水秀行連合事務局長(前日教組委員長)が評議員となっており、産学官労連携のモデルケースである。

【子ども50人を含む約250人の参加で盛会】

メインのシンポジウム会場には、子ども50人を含む約250人が集まり、盛会となった。日教組からは、地元埼玉の他、茨城・千葉・東京・神奈川等の各都県から100人近い参加があった。JAMの仲間も多く、清水連合事務局長の姿も見える。

冒頭、瀧本司日教組委員長の主催者あいさつに 続き、平尾幹雄連合埼玉会長、長谷川真一ものつ くり大学理事長の来賓あいさつがあった。

記念講演は、森下龍さん(千葉大学教員)による「ものづくり教育のゆたかな学びの意義と課題」で、その後は木下さんを進行役としてパネルディスカッション「ものづくり教育のゆたかな学びと



育ち」が行われた。パネリストは、大垣加津雄さ (ものつくり大学教員)・佐藤里桜さん(同大学4 年生)・山田聡克さん(同大学卒業生・シチズン マシナリーユニオン)の3人だ。それぞれの立場 からものづくり教育の経験談が語られた。

最後は、安河内賢弘JAM会長による主催者ま とめで幕が閉じられた。

【貴重な体験の場となった「子どもプログラム」】

記念講演と並行して「子どもプログラム」が開催され、ものづくり体験・モーターカー制作では子どもたち楽しそうな声が会場にあふれた。

その他、各会場に分かれて流衝動床実験・レーザー加工機実演・人協働ロボット実演も行われ、 子どもたちにものづくりのすばらしさを体験して もらう貴重な場となった。

【参加者で賑やかな「おとなの学校見学会」】

シンポ終了後は「おとなの学校見学会」が開催された。見学場所は、レーザー加工機・ロボットセンター・5軸加工機・ティンバー実習機・ストラクチャー実習機・屋外実習場と多彩で、4班に分かれた参加者で各会場はどこも賑やかだ。

メイン会場入り口では、JAM加盟組織のリケン・東邦車両などの企業紹介展示もあり、デモンストレーションが参加者の人気を博していた。

【意見交換会でもの大教職組の組織拡大を確認】

終了後、当企画の推進役を担った西原宣明日教 組書記次長・中谷正史日教組中執、ものつくり大 教職組の平井聖児委員長、堀内勉副委員長・サェ チャウビチャイ副委員長などで意見交換会が開催 された。本日の教育シンポの成功をもとに、もの



参加者に説明する平井もの大教職組委員長

つくり大教職組のさらなる組織拡大を図り、職場環境を改善し、大学発展をめざすことを確認した。 私大ユニオンからは、亀山亜土委員長・田口康明書記長・吉川健治監査委員・山本和彦特別中執 (日私教副書記長)が参加した。

理事長に直接、開催依頼の打診

大学側の物事の決定プロセスは何段階もの会議を経て、その都度、多くの資料を出して説明せざるを得ないのは周知の事実です。しかしながら、今回のシンポジウムは、こうした手続きを経ては時間的に間に合わないことは明らかであった。そこで堀内副執行委員長及びビチャイ副執行委員長が長谷川理事長(ILO 駐日事務所代表まで務め、労働組合に理解のある)に、ある会議後の隙間時間を利用して、直接、開催依頼をし、内諾を得るという裏技を行った。このことにより、大学側、日教組とものづくり産業労働組合の実行委員会がすんなりと進んだという経緯があります。

子どもの笑顔が労使の共通のテーマ

子どもらにものづくりの体験、楽しさ、不思議さを感じてもらうために、流動床実演、レーザ加工実演、ロボット実演、ミニーカーの制作などを行った、子どもらが目を輝かして参加しているのを見させていただいて、労使協調というのはこういうイベ



ントを通じてお互いの立場を知る機会になるのではないか?と感じたところです。

今後、ものつくり大学教職員組合はユニオンショップをめざして、大学側に本組合の真の姿を理解してもらえるように日々努力を重ねていきたいと思っています。

ものつくり大学教職員組合 執行委員長 平井 聖児

私大ユニオン・ニュース No.101 2024.03.15